アーチェリー競技〈10月5～7日〉阿仁吉田特設アーチェリー競技場

民泊で選手・監督ら110人受け入れ

◇地域ぐるみで歓迎◇

マタギの里でおもてなし

10月7日から3日間、阿仁吉田地区に新しく整備された特設競技場で行われたアーチェリー競技では、全国各地からの選手・監督331名が参加、熱戦を繰り広げました。秋田県チームは成年女子・少年女子で8位入賞。阿仁地区では、遠路訪れた選手・監督110人を民泊で受け入れ、地域ぐるみで歓迎しました。

本県チーム、全国の強豪を相手に善戦、成年女子・少年女子で8位入賞

別名「洋弓」とも呼ばれるアーチェリーは、オリンピックの正式種目にもなっている競技で、2004年アテネ五輪での日本の山本博選手の銀メダル獲得は記憶に新しいところです。

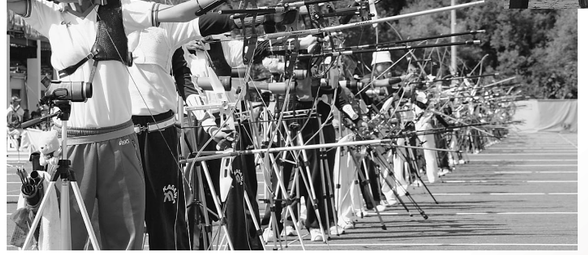
種目は、成年男女・少年男女の個人戦と団体戦。それぞれ予選及び決勝ラウンドからなり、団体戦はチーム3人の合計得点で勝敗を争う方式で戦いが進められました。

3日間とも特設の観覧席に詰め掛けた満場の市民らが観戦する中、秋田県勢も全国の強豪を相手に善戦、男子では決勝ラウンドに進むことはできませんでしたが、女子の部で少年・成年がそれぞれ8位に入賞、天皇杯、皇后杯での得点を獲得しました。

阿仁地区では開催にあたり民泊協力会・5団体が結成され、24世帯が17都道府県110人の選手・監督を受け入れました。

開幕した5日には、特設の観覧席に詰め掛けた約300人の市民らが観戦する中、午前中に成年女子と少年女子、午後から成年男子、少年男子のそれぞれの予選ラウンドが行われました

▼この競技では、体力とともに、風や日差しなどの自然条件を判断し、集中力を高める力も求められます



▲選手は70m先の122cmの的を狙って矢を放ちます。的は10段階（点数は真中から外側へ10点～1点）の得点区分となっていて、矢の当たったところで得点が決まります

▶「マタギの里」の銘を入れたミニチュアかんじきのキーホルダーがお土産として選手団にプレゼントされました

（写真は湯口内協力会のキーホルダー）

▲阿仁地区では民泊協力会5団体が結成され、24世帯が17都道府県110人の選手・監督を受け入れました（写真は必勝祈願の獅子舞も登場した下新町協力会の歓迎会）

▶香川県少年女子チームを受け入れた阿仁吉田の梅井繁司さん宅で。選手らは、温かい歓迎で自宅のようにリラックスし、大会に臨むことができました

▶閉会式では、岸部市長が「わか杉国体への参加を機に『マタギの里・阿仁』へぜひ再訪を」と選手団に呼びかけました

▶アテネオリンピックで銀メダルを獲得した山本博さんも埼玉県成年男子チームのメンバーとして参加。気さくにインタビューやサインの求めに応じていました

遠路訪れた選手らを地域全体で歓迎しようと、各協力会では趣向を凝らした「歓迎会」を実施したりオリジナルの手作り土産品を準備。

また「地場産・比内地鶏のキリタンポ」「阿仁マツタケ」「新米のあきたこまち」らの全国に通用する食ブランドの数々が選手達たちを喜ばせました。

「秋田の食べ物は絶品。最高にうまい」と太鼓判。各協力会の主婦らも、早朝5時前からの朝食の支度、夕食の後片付けを終えれば夜10時過ぎと、献身的なもてなしで舞台裏を支えました。

「地域あげての歓迎ぶりに感激」（民泊選手団）「これを機に交流を広められれば」（受入れ家庭）

競技会場に最も近い吉田集落の「吉田民泊協力会」では、4世帯で合計20人の監督・選手を受け入れ。このうち、梅井繁司さん（61）＝農業＝には四国・香川県の少年女子チーム5人が入りました。

一行は、阿仁地区の印象については、「スギ並木が美しい」「のどかな山村」「地域あげての歓迎ぶりに感激」などと述べ、「家族と触れ合えることが一番」「温かい心遣いに民泊の不安なんかすぐに消えた」と旅館やホテルへの宿泊では得がたい民泊のメリットを語っていました。

選手らを迎え入れた梅井さんと奥さんの和子さん（56）は、「明朗活発な高校生。民泊受け入れは初めてだが、この娘さんたちに元気をもらった。これを機に交流を広めることができればありがたい」と話し、香川から秋田・阿仁への再訪に期待を寄せていました。

幡則和（はたのりかず）監督は、「結果として予選敗退であったが、秋田国体での貴重な試合経験と歓待を受けた経験を今後に生かして欲しい」と、来年の大分国体での健闘を誓っていました。